「楽しさ」、「発見」、「誇り」で地域を創造する！

「只見おもしろ学」推進町民大会

▲第2部のパネルディスカッションでコーディネーターを務める齋藤修一教育長（左）とその右隣からパネリストの山科麻伊（地域おこし協力隊）さん、渡部早苗明和小学校長、藤沼航平（地域おこし協力隊）さん、宇都宮大学（D-friends）の大島悠史さん

只見町では、子どもから大人までが地域に学び、地域の価値を再発見し、まちづくりを担う人材を育てることを目的に「只見学」を推進しています。この「只見学」は、平成22年から只見学懇談会や只見学専門分野部会を教育委員会に設置し、平成25年に「只見おもしろ学ガイドブック」を刊行しました。今回、この「只見おもしろ学ガイドブック」の改訂版が新しく発行されたことを機に「只見学」をさらに推進していくため、「『只見おもしろ学』推進町民大会」を11月25日に季の郷湯ら里で開催しました。町民など約120名が参加した同大会について本号で詳しくご紹介します。

―「只見おもしろ学」推進町民大会―

この大会は、只見を知り、誇りに思い、語れる町にしていくことを目的に教育委員会が開催したものです。

開会にあたり菅家町長が「町では地域学を推進することで地域を担う人材を育成していきます。この大会を機に、町の素晴らしさを再確認し、全国に発信していきたい」と挨拶しました。

また、会場では「人材育成ダイヤモンドプラン事業」の説明や、その第4期生が作成した「只見の自慢カルタ」の展示のほか、町内の自然・歴史・産業について現地で学ぶ「只見おもしろ学講座」や「只見おもしろ学検定」について紹介するコーナーが設けられました。

―第一部　基調講演　久野氏が伝える只見の魅力―

大会の第1部として、東洋大学非常勤講師の久野俊彦氏による基調講演が行われました。テーマは「文化遺産・自然遺産の郷、只見の魅力」と

▲「只見おもしろ学」推進宣言を行う菅家町長

▲第１部で基調講演を行った久野俊彦氏

▲今回発行された「只見おもしろ学ガイドブック改訂版」。ユネスコスクールに登録された町内の小中学校や只見学検定など幅広く活用されています

▲会場に並んだ人材育成第４期生の「只見の自慢カルタ」

題したもので、地域学を活用した只見町のまちづくりについて話されました。只見町の施策は、都市追従型ではなく、自然・伝統を活かした地域振興であるとし、その中で、経済性や利便性などを追求しながら地域の魅力を発見・肯定することで、自然・伝統文化を守り保存していく持続可能な政策が行われていると説明されました。その根底にあるのが、地域学（只見学）であり、地域学の推進が地域の価値を高めると述べられました。

―第２部　シンポジウム　ここが好き、只見の魅力―

大会の第２部では、「ここが好き、只見の魅力」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、齋藤修一教育長をコーディネーターに、只見町に関わる４名の方がパネリストとして、その魅力を語りました。地域おこし協力隊の山科麻伊さんは「只見の人々は豪雪を当たり前のことと受け入れている」とし、その存在を認めることで「自然と共生」する町民の姿が魅力と伝えました。明和小学校の渡部早苗校長は「ＥＳＤ教育で只見を担う人材の育成に取り組んでいる」とし、「只見学」によりふるさとを大切にする「只見愛」を育むために、伝統芸能の継承に力を入れていると話されました。地域おこし協力隊の藤沼航平さんは「集落のありのままを見たいという人が多い」とし、町を訪れた人が只見おもしろ学ガイドブックを手に集落を散策するプランを提言しました。宇都宮大学地域活性化サークルＤ-フレンズの大島悠史さんは「布沢地域と交流しながら地域おこし活動を行っている」とし、地域と繋がる魅力を語りました。最後に齋藤教育長が「地方創生は『只見学』の学びから。地方創生は自らの力で行い、日本の先進地を目指しましょう」と話しました。

―大会宣言―

第３部では、菅家町長による「只見おもしろ学」推進宣言が行われ、「より良いふるさとを創造するために、みんなで学んでいきます」と宣言しました。